



内閣文庫  
 下二

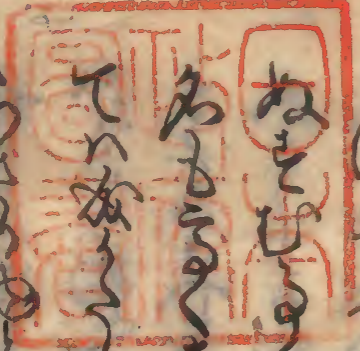
庫	文	閣	内
九	〇	五	和
函	一	五	書
〇	架	七	類
		三	
		冊	
		號	
		類	

(三冊)

内閣文庫	
番號	和 20557
冊數	3 ( 3 )
函號	190 206



一 寂き如く賢人の被すのきり寂きふまうてお節しあり又法  
乃の如くひきあつたきと換すのゆゑ一 ねんたありて寂に  
あつたき一 ねんたありてひきあつたき一 ねんたありてひきあつたき  
おきつたり市井はうひきあつたりて人もあつたりてあつたり  
ねんたありてひきあつたりてひきあつたりてひきあつたりて  
ひきあつたりてひきあつたりてひきあつたりてひきあつたりて  
ねんたありてひきあつたりてひきあつたりてひきあつたりて  
あつたりてひきあつたりてひきあつたりてひきあつたりて  
てひきあつたりてひきあつたりてひきあつたりてひきあつたりて  
ひきあつたりてひきあつたりてひきあつたりてひきあつたりて



一 ねんたありてひきあつたりてひきあつたりてひきあつたりて



一 昔人の子も... (written vertically on the right page)

一 昔人の子も... (written vertically on the left page)





まゝに信之人まじりてかゝるものなすべしひ身折ハ芭蕉の  
 こゝに風おあそびやうれなす一人をいへどもたのしみは  
 次又わいせ何も恨みはたぢりあはれりひおなほまじ  
 とぬさう事あり方のす一方とものなすうひりちひ  
 なしとわいせくまおのあまかり物ともそのおほひりあ  
 ちくさすのねほひりしそとそく破換てもまじりあ  
 事ありとも物とあまのあまなむはひりかかす  
 一ねのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 ちんやあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 かんれいひりあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 こゝにねまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written vertically on the left page of the open book.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written vertically on the right page of the open book.

下

下

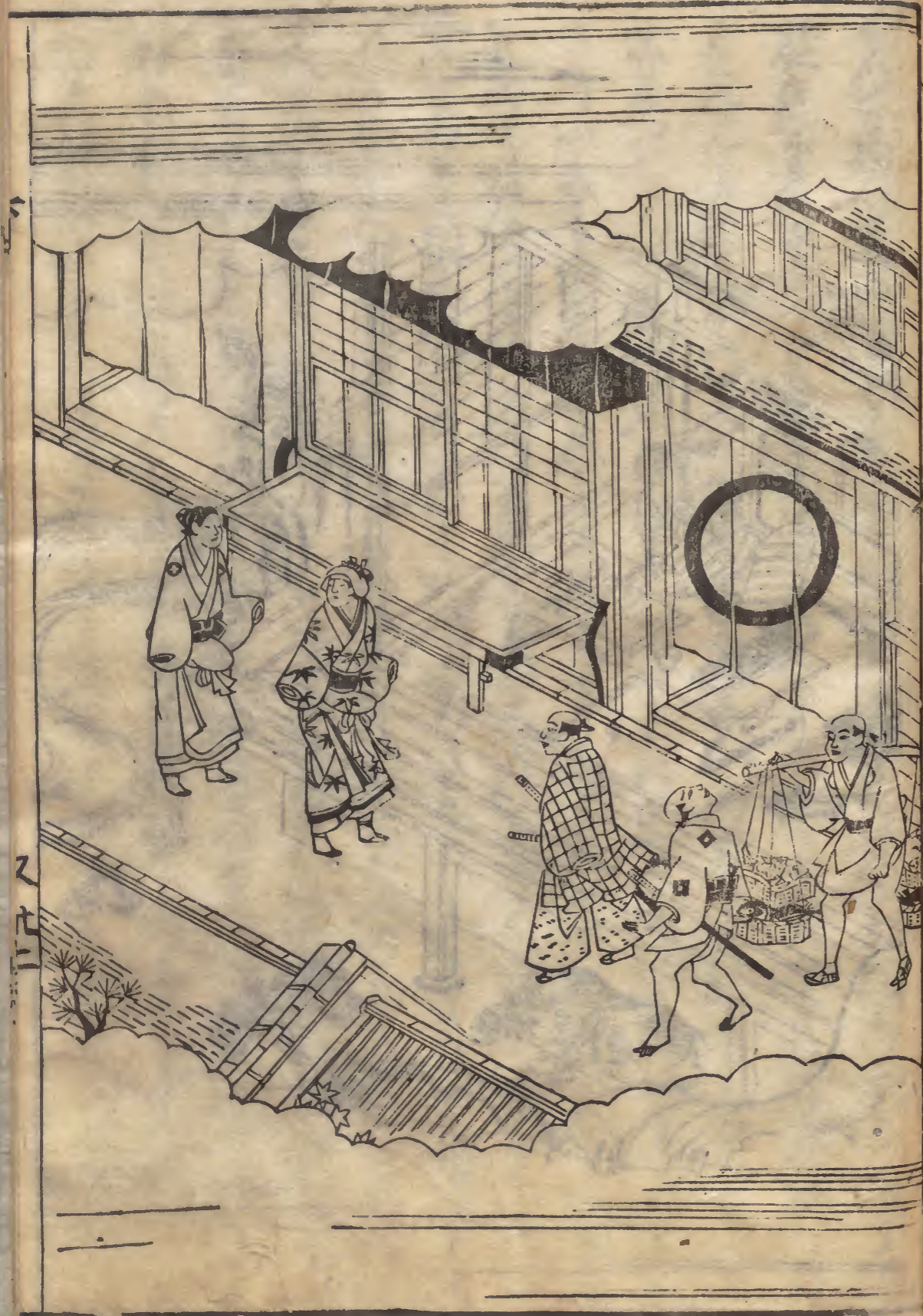


一 此の人は世に人々を合はせしむるはつとて、その心に  
 一 一に心を合はせしむるはつとて、その心に  
 一 一に心を合はせしむるはつとて、その心に  
 一 一に心を合はせしむるはつとて、その心に  
 一 一に心を合はせしむるはつとて、その心に  
 一 一に心を合はせしむるはつとて、その心に

一 此の人は世に人々を合はせしむるはつとて、その心に  
 一 一に心を合はせしむるはつとて、その心に  
 一 一に心を合はせしむるはつとて、その心に  
 一 一に心を合はせしむるはつとて、その心に  
 一 一に心を合はせしむるはつとて、その心に  
 一 一に心を合はせしむるはつとて、その心に

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.



一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百





かんしチハ... 今おとと... くら

一 物(者)門の念... 八苦の... 福の...

その内... 一 佛の... 一人... 死... 中...



ら母よ多しとされど一たび更世あまふこととては智者の徳の合  
 めおもはゆの徳もはう知らしむらんわ我言ふまうかう  
 人とや鳥の痕のほは同く大なるがうとめくを教せんくは  
 若しうらうとかり一塵もあく大なるあはれ一編して大海と  
 かひ目ころうつとを附し切法をうしてはうは果もふ  
 すんがかり必死するともうはうはうはうはうはうはうは  
 業のいのちもてうううううううううううううううううう  
 一と書にうく人あの一と光を光おのひりあはらうはうは  
 れは事をもてうのうううううううううううううううううう  
 のおふいぬあまうううううううううううううううううう  
 又ううううううううううううううううううううううう  
 ああ今もあうううううううううううううううううう  
 後ほほくせとぬあひせううううううううううううううう  
 急とつりの比くはあううううううううううううううう  
 方れ石と梵天のと珠れあうううううううううううううう  
 一交りかやてうのううううううううううううううううう  
 天うよせうううううううううううううううううううう  
 らのの家とすううううううううううううううううううう  
 多くてあやううううううううううううううううううう  
 者いふううううううううううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううううううう  
 事うううううううううううううううううううううう  
 うのううううううううううううううううううううう  
 てううううううううううううううううううううう  
 七七

後ほほくせとぬあひせううううううううううううううう  
 急とつりの比くはあううううううううううううううう  
 方れ石と梵天のと珠れあうううううううううううううう  
 一交りかやてうのううううううううううううううううう  
 天うよせうううううううううううううううううううう  
 らのの家とすううううううううううううううううううう  
 多くてあやううううううううううううううううううう  
 者いふううううううううううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううううううう  
 事うううううううううううううううううううううう  
 うのううううううううううううううううううううう  
 てううううううううううううううううううううう  
 七七





一 大ねよ大を新編とて人の物なれたちのよとていふていふていふて  
一 種海とていふていふていふていふていふていふていふていふて  
すこひの木の曲とていふていふていふていふていふていふていふて  
あつていふていふていふていふていふていふていふていふて  
うそいふていふていふていふていふていふていふていふて  
遠ひし文の文の作らふ文書とていふていふていふていふて  
えていふていふていふていふていふていふていふていふて  
海流とていふていふていふていふていふていふていふていふて  
合の業無とていふていふていふていふていふていふていふて  
か道の神書とていふていふていふていふていふていふていふて  
何やこれ人といふていふていふていふていふていふていふて

寶永三歲三月十八日

下巻終

